

れきはく

No.123

2017.9.4

秋季特別展

開祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回 遠忌記念
二祖峨山韶碩禪師六五〇回

禪の心とかたち — 總持寺の至宝 —



釈迦三尊像
雲谷等璠筆 3幅
江戸時代
横浜市・大本山總持寺蔵

輪島市門前町にある總持寺祖院そうじじそいんは、かつて永平寺に並ぶ曹洞宗の大本山でした。大本山總持寺として全国に1万6千もの末寺を持ち、全国から人々が押し寄せたため、門前の町もまた大いに発展してゆきました。「門前」という地名も、まさにこの總持寺の門前町であったことに由来します。明治31年(1898)の火災で山内の大部分が焼失し、その後横浜市鶴見区に拠点を移しましたが、その跡地は復興され、祖院として今に至ります。

本展では、開祖・二祖の遠忌を記念し、約50年ぶりに總持寺の至宝が里帰りします。祖院をはじめとした関連寺院の寺宝も併せて公開し、石川で育まれた總持寺の歴史と文化をご紹介します。

■会 期 平成29年 9月16日(土)～11月5日(日) 会期中無休

[前期] 9月16日(土)～10月11日(水) [後期] 10月12日(木)～11月5日(日)

■会 場 石川県立歴史博物館 第1棟2階 特別展示室・企画展示室

■主 催 石川県立歴史博物館・大本山總持寺

■特別協力 北國新聞社

■後 援 NHK金沢放送局・北陸放送・石川テレビ放送・テレビ金沢・北陸朝日放送・金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお

■開館時間 9:00～17:00(展示室への入室は16:30まで)

■観 覧 料 一般800(640)円、大学生640(510)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※65歳以上は団体料金 〈特別展・常設展セット券〉 一般880円、大学生700円

展示構成

- (1) 禅の諸相
- (2) 草創と展開 祖師頂相と基本史料
- (3) 嫡々彩華 文化財賞翫

みどころ

1. ほろ酔い達磨、降臨。

「禅の諸相」のコーナーでは、多様な側面を持つ總持寺の禅を、修行道具や屏風、仏像を配置することで表現しています。中でも不倒達磨図屏風は、明治時代の日本画家鈴木松年によるもので、禅宗の祖師である達磨の威厳を確かな画力で表現しています。赤らんだ顔、口元から覗く白い歯、「不倒々々酔不倒」の墨書を見るに、どうやら酒に酔っているようです。オーソドックスな画題ではありますが、画面いっぱいに描かれたこの異様な達磨は、落ち着いた禅空間にあって一際目を引く存在です。



不倒達磨図屏風 鈴木松年筆 1隻
明治時代 横浜市・大本山總持寺蔵 ※後期展示

2. 瑩山の枕元に立った秘仏!?

總持寺と観音信仰は深く結びついています。開祖瑩山紹瑾の母懷観大姉は熱心な観音信仰を持っており、観音堂への道中に生まれた瑩山は、観音の申し子とされました。また總持寺は瑩山が諸岳寺観音堂を譲られ、それを禅宗に改めることで成立しましたが、この時本尊の観音菩薩が瑩山の夢に現れたといわれています。祖院が所蔵する観音菩薩坐像はまさにこの諸岳寺観音堂の本尊といわれており、慈雲閣に安置されています。通常は秘仏ですが、本展のために特別にご出品いただきます。



輪島市指定文化財 観音菩薩坐像 1躯
鎌倉～南北朝時代
輪島市・大本山總持寺祖院蔵

3. 開祖・二祖の素顔に迫る

總持寺を開いたのは瑩山紹瑾ですが、開創から三年後には弟子の峨山韶碩に住持職を譲っています。峨山は40年以上總持寺の経営に携わり、その発展に大きく寄与したことから、總持寺では瑩山を開祖、峨山を二祖として、共に崇敬しています。

禅宗では祖師を絵画や彫刻に表す頂相が見られますが、羽咋市永光寺所蔵の瑩山紹瑾坐像はその再現性で特に優れています。この像は瑩山の没後、法嗣（弟子）である明峰素哲の時代に作られましたが、やや平たい頭部や左耳後の瘤等の特徴的な造形から、瑩山の面影を強く残していると考えられます。また越前市龍泉寺所蔵の峨山韶碩像は、峨山の法嗣である通幻寂霊が龍泉寺を開創した時にもたらしたもので、寺伝では峨山が印可（悟りの証明）として通幻に与えたものといわれています。面長な輪郭は永光寺所蔵の峨山坐像とも共通し、険しい表情からは峨山の厳格な人柄がうかがえます。



石川県指定文化財 瑩山紹瑾坐像 1躯
鎌倉時代 羽咋市・永光寺蔵



福井県指定文化財 峨山韶碩像 1幅
南北朝時代 越前市・龍泉寺蔵 ※後期展示

4. 總持寺の多彩な宝物を一挙公開

700年もの長い歴史の中で、總持寺には次々と宝物が集められました。重要文化財に指定されている提婆達



石川県指定文化財 桃尾長鳥鎗金手箱 1合
中国・明時代 輪島市・大本山總持寺祖院蔵



重要文化財 提婆達多像 1幅
朝鮮・高麗時代 横浜市・大本山總持寺蔵 ※後期展示

多像は、幅90cmのスケールと豊かな色彩で、ひととき異彩を放っています。工芸品では石川県指定文化財の桃尾長鳥鎗金手箱が注目されます。鎗金とは日本でいう沈金のことで、蓋表・前後左右側面に施されています。桃の実の膨らみや昆虫の羽の網目模様などを写實的に描いており、中国鎗金の古い作品が少ないことから、資料的価値の高い貴重な作品です。

5. 近代の外護者 村井吉兵衛の功績を明らかに

村井吉兵衛は明治から大正時代にかけて活躍した実業家で、はじめ煙草製造業で名を挙げ、やがて銀行を経営し、印刷業、製紙業など、幅広く事業を展開しました。村井は移転後の總持寺の有力な外護者で、大正4年(1915)に鐘鼓楼を寄進したほか、多数の仏像・仏具を寄附しました。中でも注目したいのが九谷焼茶器で、これは九谷貿易商であった谷口金陽堂から村井へ送られたものです。村井の父は白山市鶴来の出身で、石川との不思議な縁を感じます。



九谷焼茶器 1式 明治時代 横浜市・大本山總持寺蔵

本展では、開祖瑩山紹瑾700回忌と二祖峨山韶碩650回忌の記念ということで、普段は見られない貴重な寺宝が多数出品されます。中には横浜移転後、100年ぶりに帰郷する資料もございますので、この機を逃さず、ぜひ当館へ足をお運びください。

■ 関連行事

(1) 記念講演会

「曹洞宗の頂相画

重要文化財 瑩山紹瑾像(總持寺所蔵) を観察する」

總持寺所蔵の重要文化財である瑩山紹瑾像について、總持寺宝蔵館の岩橋館長にご講演いただきます。

講師：岩橋 春樹 氏 (大本山總持寺宝蔵館嫡々庵館長)

日時：9月16日(土) 13:30～15:00

会場：ワークショップルーム

定員：80名

※申込不要/当日先着順/聴講無料

(2) 展示解説

展示会の見どころを解説します。

日時：9月24日(日)、10月22日(日)

各13:30より 1時間程度

場所：特別展示室・企画展示室

※要特別展観覧券、申込不要

(3) 石川の歴史遺産セミナー「曹洞禅のひろがりと總持寺」

日時：10月8日(日) 13:00～17:00

会場：ワークショップルーム

定員：80名 申込者多数の場合は先着順

講師：東四柳 史明 氏 (金沢学院大学名誉教授)

圭室 文雄 氏 (明治大学名誉教授)

木越 祐馨 氏 (加能地域史研究会代表)

要事前申込：歴史博物館学芸課 (076-262-3238) へ

電話またはメール/先着順/聴講無料

(4) ワークショップ「ミニチュア枯山水をつくろう」

枯山水は水を用いない作庭様式であり、石や砂で深山幽谷、大海などを表現するものです。室町時代の禅宗寺院で特に好まれました。禅僧たちの修業風景をミニチュアで再現し、禅の文化を体験します。

日時：10月14日(土) 13:30～15:00

会場：ワークショップルーム

対象：一般

定員：20名 申込者多数の場合は抽選

参加費：500円

要事前申込：往復はがきにイベント名・お名前(1通につき1名)・ご住所・お電話番号を明記し、歴史博物館普及課まで

申込締切：9月29日(金) 必着

(5) ミュージアムウィーク特別講演会「禅とハードル」

講師：為末 大 氏

日時：10月28日(土) 15:30～17:00

場所：ワークショップルーム

定員：120名 申込者多数の場合は抽選

要事前申込：往復はがきにイベント名・お名前(1通につき2名まで)・ご住所・お電話番号をご記入の上、〒920-8580

(住所不要) 石川県文化振興課「禅とハードル」係まで。

申込締切：10月12日(木) 必着



学芸員
コラムしんせん
謎の神饌「おけら餅」を再現せよ！

常設展示「民俗」のテーマは「加賀・能登の祭り」。そのうち「神と人の饗宴」コーナーでは、神に供える神饌や直会料理を紹介しています。現在の神饌は酒、米、塩、魚、野菜、果物などが中心で、多くは調理せずそのまま供えられますが、古くは人間が食べるものと同様に調理をしたものや、美しく盛りつけたものを供えていたと考えられます。実際、西日本を中心とした各地の古社には、調理や盛り付けに特徴のある神饌が伝わり、「特殊神饌」などと呼ばれます。石川県内にも、能登を中心に特徴的な神饌が伝わります。里海里山の豊かな産物を盛り込んだ神饌は、多くが当屋による祭祀によって保たれ、土地に伝わる伝説と融合したものもあります。石川の祭礼文化を象徴するものの一つと言えるでしょう。

展示物の中心となる神饌の模型は、現地から実物を一式いただき、業者で型取りをして製作を行いました。物理的に型取りができないものは、現物の形、色、質感を可能な限り再現してもらい、中には製作中の模型を持参して、地元の方に修正箇所を指示してもらうこともありました。

その中で一つ難儀なものがありました。中能登町久江に伝わる「おけら餅」です。久江の久氏比古神社の春祭りの神饌ですが、戦時中に中断してしまい、現在に伝わっていません。しかし、その存在は『石川県史 第5篇』（昭和8年発行）などで確認されており、神社の記録類や、民俗学者小倉学氏の調査によって具体的な形状を知ることができます。また小倉氏が調査の折、昭和42年に再現された「おけら餅」を撮影したモノクロ写真が存在します。

それらを総合すると、「おけら餅」は以下のような神饌です。木製の台に置かれた5つの鏡餅の上に、5色（青・白・赤・黒・黄）の菱形と猪口形の餅（団子とも）を5組ずつ置き、鏡餅を「青-東」「白-西」「赤-南」「黒-北」「黄-中央」になるよう配置します。菱形餅は垂直に折って半分を立てるようにし、その上に猪口形の餅を置くため、さながらデコレーションケーキのような姿です。5つの鏡餅の間には、串柿、豆腐、大根、海藻、オコシなどが置かれ、「御供様」と呼ばれる、木杯に飯を高盛にしたものが別に付属します。「おけら」という名称は薬草の朮（あむ）に由来すると考えられていますが、なぜこのような独特の形なのか、明らかになっていません。

久江地区では平成20年頃からこの「おけら餅」を復活させましたが、長く中断していたため忠実な再現が難しく、簡略なものになっていました。博物館では、この全国的にも珍しい神饌を、できる限り古い形式を反映して再現したいと考えました。

手がかりは記録とモノクロ写真だけ、特に問題なのは菱餅・猪口餅の色でした。大正～昭和初期の記録には「色粉を使用」とあり、食紅のことと考えられますが、練り込んだのか、上から色付けをしたのか、具体的な色味も分かりません。まず、写真を細部まで観察すると、菱餅は全体に色付けしてあるのではなく、半分だけ、垂直



神饌模型「おけら餅」

に立っている部分にだけ着色されていると推察できました。それならば食紅を混ぜ込むよりも、白い菱餅を作って直角に折った状態で乾かし、半分だけ色を塗る方がきれいに仕上がります。

実際に食紅で餅などに着色する神饌はあるのでしょうか。県内には見当たりませんが、例えば奈良の春日大社のおん祭には、赤・青・黄・白の4色の米粒を盛り上げた「御染御供」があります。また奈良県桜井市・談山神社嘉吉祭の「百味御食」では、赤・青・黄・白の米粒を幾何学文様に積み上げた「和稲」に、赤・青・黄・白・黒の餅が飾られます。黒は墨を塗り、他は食紅で染めます。「青」の色味はいずれも緑色です。

これらは、「赤・青・黄・白」の4色もしくは「赤・青・黄・白・黒」の5色に米や餅を着色し、豊かな色彩をもって祭礼の場を飾る神饌であることが共通しており、仏教の影響が濃く表れたものと言われています。「おけら餅」と上記のような古社の神饌との関わりは確認できませんが、米や餅に多色を付けて飾る、という発想は同じと見てとれます。今回はこれらの神饌の色味を参考に、「おけら餅」に色付けをすることにしました。

その他にも、鏡餅の大きさや、「オコシ」と呼ばれる菓子の素材や形、御供様の高盛飯（おんぎ）に巻き付ける藁（わら）の形状など、はっきりしない要素が多くありました。これらの疑問についても、餅の色と同様、写真と記録類にある記述を合わせ、他社の例を参考に一つ一つ形状を決めていきました。

模型はひとまず出来上がったものの、なぜこのような神饌が作られたのか、なぜ「おけら」の名称があるのかは今後の課題です。しかし、文字情報や写真をもとに、模型という方法で具体的な形、色、質感を伴った情報を提示することができるのも、博物館展示の魅力の一つではないでしょうか。試行錯誤の末に完成した「おけら餅」は、展示室でも独特の存在感を放っています。

(学芸主任 大井理恵)

教育プログラム Educational Program

博物館のお仕事とは？ ～れきはく職場体験～

石川県内の中学校では、キャリア教育の一環として職場体験があります。当館でも例年、中学生が職場体験に訪れます。今回はその中から紫錦台中学校の職場体験について、歴史体験ひろばでの活動をご紹介します。

まずは「はてなボックス」の展示替えから。このコーナーは、資料を「見る」だけでなく「触れる」ことができる体験ひろばの中でも重要な場所となっています。今回はあらかじめこちらで資料の候補を選んでおき、生徒たちにその中から選んでもらいました。生徒たちは資料に触る緊張もあってか、最初のうちは少しぎこちない手つきで、なかなか展示する資料が決まらない様子でした。こんな時は、実際にこのコーナーを体験してみると手がかりが見つかるもの。生徒

の間で資料を出し入れして考えるうちに、「この手触りはいいね」や、「こっちの方が分かりやすい」など、実際の来館者の気持ちになって考えることができているようでした。



「はてなボックス」展示替え

続いては「歴史にハン

ズオン」と呼ばれるコーナーの棚の清掃と資料の展示換えです。この棚にはさまざまな資料があり、実際に触れることができません。生徒たちにはまず、自分たちの思い通りに展示換えをしてもらいました。この作業のころになると生徒たちも慣れてきたのか、お互いに役割を分担したり、他の人が気づいていなかったところを補うなど、徐々に個人ではなくグループとして活動する様子が目立ってきました。

さて、こうして一度できあがった展示ですが、ひとつ課題が見つかりました。棚板の一部が高く、背の低い子たちが届かないようになっていたのです。これは大人になるにつれ見落としがちになるところなので、お互いに確認するなどして気を付けています。今回も話し合いながら棚の位置を調節し、無事展示替えを終えることができました。



「歴史にハンズオン！」展示替え

今回の職場体験ではほかにも展示室の巡回や近隣施設へのポスター配布など、博物館の業務を一部ですが体験し、仕事をするにあたって様々なことを学んだと思います。今回取り上げた展示替えでは、来館者の立場になって考えること、来館者の生の反応が見えることを通して、仕事は「自分のため」だけではなく「誰かのため」になるものでもあるということを感じてもらえればと思います。3日間、本当にお疲れ様でした。

(学芸員 野村将之)

■ 催し物案内 展示解説や各種講座などの情報を Information お知らせします。

○学芸員によるワンポイント解説(全11回) ※要観覧料、申込不要
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

時間 13:30～14:00 場所 展示室

○れきはくゼミナール(全11回) ※受講無料、申込不要
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。

時間 13:30～15:00 場所 ワークショップルーム

○古文書講座(前期・後期各3回) ※受講無料、要申込
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。

時間 13:30～15:00 場所 ワークショップルーム

*前期分受講者のお申し込みは締め切りました

10月 ※10月の休館日 なし

21日(土) れきはくゼミナール
テーマ 中世總持寺と能登の在地領主 講師 学芸員 岡崎 道子
27日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ 「美術工業」の時代 講師 学芸主任 石田 健

11月 ※11月の休館日 11/6(月)・11/7(火)

18日(土) れきはくゼミナール
テーマ 地租改正 講師 学芸主任 石田 健
24日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ 金沢城下の祭礼 講師 学芸課長 大門 哲

12月 ※12月の休館日 12/28(木)～12/31(日)

9日(土) れきはくゼミナール
テーマ 加賀藩の和歌文化 講師 学芸主幹兼資料課長 濱岡 伸也
22日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ 古代の北陸と渡来文化 講師 学芸主幹 戸淵 幹夫

1月 ※1月の休館日 1/1(月)～1/3(水)

20日(土) れきはくゼミナール
テーマ 暮らしの中の織物 一加賀・能登の仕事着を中心にー
講師 学芸主任 大井 理恵
26日(金) 星曼茶羅の図像学 講師 学芸員 岡崎 道子

*各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします

■トピックス
Topics

来館記念にオススメ!
なりきりショットの楽しみ方

フリー（無料）ゾーンの片隅にあるせいか、意外と知られていないのが「なりきりショット」のコーナーです。このコーナーでは大名行列やはにわなど、全10種類のメニューから画像を選び、歴史上の人物や古写真などに顔をはめて、自分のカメラやスマートフォンで撮影することができます。



どれにしようかな〜

当館の職員もチャレンジしてみました。「ちがうちがう、もっと上! あー、行きすぎた。」「え〜? 足が写ってるけど…(汗)」とやや苦戦しましたが、なんとか撮影成功しました。「歴史体験ひろば」では昔の衣裳を着ることができませんが、滞在時間が限られている場合はこちらの「なりきりショット」でお手軽な歴史体験をしてみたいはいかがでしょうか? SNSへのアップも大歓迎です!



■次回展覧会のお知らせ
Upcoming Exhibition

企画展「仕事着が語るもの」

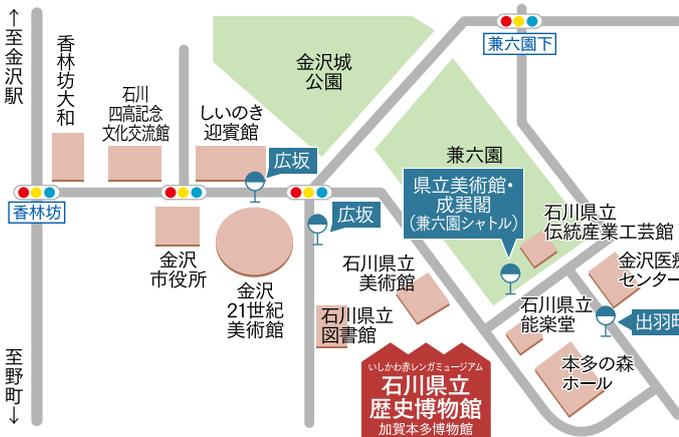
12月16日(土)~1月21日(日) ※12月28日~1月3日休館

現在では、自分の衣服を手製することはもちろん、傷んだものを補修して着ることも少なくなりました。大量の既製服が安価に購入できるようになり、かつて女性たちが家族の衣類を手作りし、1枚の服を繕って着続けるような衣生活があったことを忘れてしまいがちです。一方で、手芸が静かなブームとなっているように、手仕事のあたたかみや美しさを再確認する動きもあります。私たちの衣類とのつきあい方は、どのように変化したのでしょうか。

冬の企画展では、館蔵の染織品コレクションから、明治~昭和初期の衣類のうち、刺し子を施した仕事着や布を再利用した裂織の仕事着、端切れを利用した衣類や藤布などの自然布を紹介し、その形状や素材、製作方法、保全方法などを通し、くらしを支えた手仕事について紐解きます。



デタチベ (旧白峰村で使われた男性用の仕事着)
当館蔵 重要有形民俗文化財



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL : 076-262-3236 FAX : 076-262-1836
E-mail : rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



(広告)

ガン保険

チューリッヒ生命
「終身ガン治療保険 プレミアム」

通院治療が増加している時代の、画期的なガン保険

今、ガン保険にご加入されている方も、
ご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-65446

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。恐れ入りますが携帯電話等でおかけ直してください。
受付時間: 10時~19時(日曜定休) 広告有効期限: 2018年2月28日 募集16004-20160112
(募集代理店)株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング 〒160-0022東京都新宿区新宿5-17-18 ZURICH

既にガン保険にご加入されている方に

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤
- 保険期間・保険料ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円) 払込期間:終身

35歳男性 月払保険料 **1,500円**

自由設計プランで、ガンの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
- 保険期間・保険料払込期間:終身

40歳男性 月払保険料 **3,216円**

※記載の保険料は、2015年7月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。